

千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌
第2号

発行日: 2007年10月1日
発行: 富山県立大学同窓会 会長 荒木 甫 / 副会長 高田 満
編集: 千瓢編集部 [編集長 池上 勤]
住所: 〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内
電話: 0766-56-7500 FAX: 0766-56-0396
メール: senpyokai@pu-toyama.ac.jp
URL: <http://senpyokai.pu-toyama.ac.jp/>

特集

先生からのメッセージ

みなさん
お元気?

K 先生のひとこと

植松 哲太郎



「毎日2時間の読書を一生続けなさい。」筆者の高校時代の校長だった K 先生のひとことが50年経った今も頭を離れない。先生は別の高校で、作家の石原慎太郎東京都知事の担任をされたこともあるから、石原知事もこの言葉を聞いて大きくなったに違いない。

毎日1時間ならスキマ時間の読書を寄せ集めるだけで可能だろう。3時間となると始めから無理だと諦めてしまう。毎日2時間というのは、相当難しいが努力次第では達成できる、実にうまい数値である。K 先生のこの巧妙な罠にかかり、この教えを実行しようといつも努力してきた。実行できなかった日のほうが実行できた日数よりはるかに多い。しかしお蔭で本を読むことが好きになった。

本が好きになる理由は人によって様々であろう。筆者の場合は、第一に敗戦後の何もない時代に子供時代を過ごしたためかもしれない。食べ物も無かったけれど本も無かった。そのときの肉体的、精神的飢餓感がトラウマとなり、今もトンカツを見ると喰らいつき、とても読みきれない量の本を買い込んでしまう。第二に、大学生時代の通学路上に神田神保町の古本屋街があった

ことか。ほとんど毎日、夕方の数時間を古本屋巡りと喫茶店での読書に費やす生活が2年間続いた。そして第三が K 先生の罠。

それにしても、たった一言で、それを聞いた生徒に50年間も影響を与える教師の力には感服する。ひるがえって自分は、長年の教師生活の間に果たしてそのような印象に残る言葉を発したことがあるのだろうか。この一文の読者である卒業生の皆さんに聞いてみたいとわからないが、どうもあまり自信はない。

当時の K 先生は今の筆者より若かったはずであるが、ずっと年長の慈父の表情でいつも浮かび上がってくる。先生の前では私も高校生に戻り、青春真っ只中にワープしてしまう。読書の楽しみと青春回帰をもたらしてくれる K 先生のひとことに感謝し、今日も2時間の読書に挑戦しようと思う。

植松 哲太郎

富山県立技術短期大学 機械科 教授 (1983.4 - 1992.3)

富山県立大学 機械システム工学科 教授 (1990.4 - 2005.3)

【現在】

(財) 富山県新世紀産業機構 産学官連携推進センター長



Index

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

- 1～4 《特集》先生からのメッセージ、短信
- 5 新旧学長からのメッセージ
- 6～7 私の好きなもの、この数字をご存知ですか?
- 8～9 富山県立大学同窓会会則、同窓会徒然
- 10～11 同窓会日誌
- 12～13 探しています

- 14～15 研究室の近況案内
- 16 総会を終えて、はてなクイズ
- 17 同窓会総会スナップ
- 18 ゴルフコンペ、大学ニュース、
- 19 歴代の同窓会長に聞きました、同窓会総会のお知らせ
- 20 集まってま～す、声、編集後記

近況から

宮崎 平三



県立大学を退職してから4年と半年が過ぎました。何かずいぶん昔みたいな気もするが、改めて勘定してみるとついこの間でした。退職後も非常勤講師として短大部の教育の一部をお手伝いをし、また研究面でも微力ながら側面から協力させてもらっています。

6月23日1泊で旧県立大谷技術短期大学農業機械科5回生(1968卒)の還暦を記念した同級会がありました。35名中21名が参加、教官は喜寿を迎えられた足立原先生、佐藤先生と古希を迎えた私の3名でした。卒業以来久しぶりの再会の者も、瞬時にタイムスリップして旧短大時代に戻ったかのようでした。40年の歳月はそれぞれの中に重く深く刻み込まれているようで、一種の感慨を覚えました。中に一人県外埼玉から来てくれた卒業生がいて、彼は卒業後のある時肉体的ハンディを負い、一人では旅行等が出来ない身体になったが、今回の同級会のため近所のご夫婦が同行して助けて下さったとのこと。この一事が彼の生きざまを如実に物語っているようで、皆感銘を受けました。

ところで、たとえば技術者はその道のプロであり、技術を磨き確固不動の自信を持って生きようとしします。一方人間は生かされているとも言われます。自分の力を信ずることは重要ですが、只一人の力で物事をなし得たと錯覚しないよう心したいと思う。

さて、私は在職中前出の農業機械科に長く籍を置いていた。平成2年4月大学改組にともなう短期大学部の発足とともに、農業技術学科農業土木専攻(現環境システム工学科)に移り、そこで退職を迎えました。そのような縁もあるので、その前身の農林土木科を含め、往時の諸先生方を思い起こし、ご参考までに私が知りうる範囲でその動向を退職順に略記します。(誤り等あればご容赦下さい。)お名前のはは退職年、敬称略

桑 原 英 夫 (S47) : 山形大学退職後環境問題等で
広く活躍中

秋 吉 康 弘 (S48) : 宮崎大学農学部

佐 久 間 泰 一 (S60) : 筑波大学農林工学科

町 村 尚 (H1) : 大阪大学大学院工学研究所

佐 藤 泰 一 郎 (H3) : 高知大学農学部

神 代 金 治 (H4) : 地域の重鎮として活躍中

奥 村 博 司 (H6) : 近畿大学農学部

鎌 田 新 悦 (H12) : 小杉町から東京へ移住された

北 條 弘 生 (H13) : 本学非常勤講師から、関係諸団体や地域の指導者として活躍中

宮崎 平三

富山県立技術短期大学 農業機械科 助教授 (1962.4 - 1991.3)

富山県立大学短期大学部

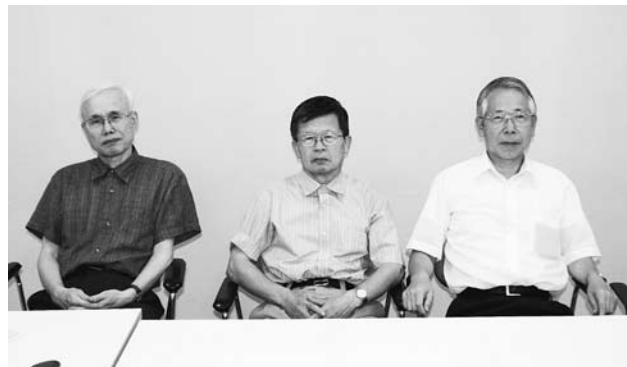
農業技術学科農業土木専攻 助教授 (1990.4 - 2003.3)

【現在】

富山県立大学 環境システム工学科 非常勤講師

研究室から卒業生へのメッセージ

電子情報工学科は平成18年の学科改組により、情報システム工学科と知能デザイン工学科の一部に分かれることになりました。現在、情報システム工学科は大きくは以下の3講座(情報メディア工学講座、通信ネットワーク工学講座、ソフトウェア工学講座)で構成されています。以下に各講座からのメッセージです。



写真左から片山教授, 安井教授, 畑田教授

●情報メディア工学講座 (片山教授、中野教授、太田教授、西田准教授、小林(香)講師、落合講師、西原助教)

就職して、職場に入り、働くようになり、社会人となった今、これから先の長い技術者としての土台作りが大切であると思います。志を高く、不断の精神から行く先の展望が開けるとの信念をもって、急ぐことなく歩いていってください。最後に一言「経験してこそ初めてわかることが幾らでもありますよ。」

●通信ネットワーク工学講座 (安井教授、岡田教授、松本(三)教授、松田(敏)教授、松田(弘)准教授、岩田准教授、三宅講師、石坂講師、中田助教)

『若さ』とは『可能性』です。若い県立大学卒業生の皆さんは、多くの可能性を持って社会に出発しようとしています。どうかその可能性を100%生かしきって、実力をフルに発揮し、皆さんが置かれようとしている環境の中で、大いなる寄与をして頂くようお願いいたします。我々県立大教員の教育力は皆さんの社会での働き様によって計られると考えています。皆さんの活躍が大学発展に大きな意義を持ちますので、お互いに頑張りましょう。

●ソフトウェア工学講座 (畑田教授、安宅准教授、浦島助教)

ソフトウェア工学講座は目下は旧ソフトウェア工学研究室教員3名の小所帯で、インターネット応用システム、社会情報システムなどに重点を置いた研究を進めています。企業との共同研究など産学連携の強化により、研究を加速し、実用化を推進しておりますので、困った時にはいつでも研究室を訪ねてください。歓迎します。

千瓢によせて

竹内 敬俊

富山県立大学に二つあった同窓会が合併して、会員約8千人を擁する富山県立大学同窓会として新しく発足して機関紙「千瓢」の創刊号が昨年既に発行されたことに先ずはお祝いを申し上げます。

同窓会々員各位にはそれぞれの分野、或いは立場でご活躍されていることに敬意を表するとともにお慶びを申し上げます。

私は富山県立大谷技術短期大学創立時から長い間多くの学生と、実験実習や、バレーボール部のコーチとして(約10年間)学科の枠を超えて親しく関わっていただいていたに会員各位の消息が何となく気がかりになります。人伝えやメディア関係が報ずる活躍の様子等を見聞きするにつけ悦ばしく、また頼もしく思うのであります。

会員各位は、県内はもとより全国各地で広く活躍されていますが、私は集落の世話役を受けていることから自治体関係の仕事で役所へ出向きますが、そこで会員に接することがあります。こんな時なんとなく気安くなり我が儘を言ったりすることもあります。言うまでもなく同窓会員は公務員だけでなく多くの企業で多種多様の業種に亘り重要な地位で大きな責務の中で活躍されているのですが、こうした中での実績が自ずと富山県立大学の社会的な評価、そうして知名度も高めることになり、また後輩の励みの大きなエネルギーになると思うのです。

少子化の時代を迎えて大学間の学生募集競争が激しくなる暗い時代にはいると言われていますが、同窓会々員各位の活躍によってそうした不安を払拭し、富山県立大学を更に大きな発展へと繋がるものと確信しております。



竹内 敬俊

富山県立技術短期大学 農業機械科 助手 (1962.4 - 1991.3)
富山県立大学短期大学部
農業技術学科生物生産専攻 助手 (1990.4 - 2001.3)

無事消光しています。

田中 祥子

千瓢会と工学部同窓会の合併、誠におめでとうございます。大人の話し合いをなさったのだなあと大層喜ばしく思いました。最近の国公立大は厳しい財政事情です。「任しておけ」の一言が聞こえてくる同窓会であって欲しいと願っています。

次に、旧応数職員の近況を書させていただきます。先ず、5月の連休中に新保外志先生を金沢市内の病院に馬場伊美子先生と見舞いました。馬場先生が昨年3月に東北大学大学院情報科学研究科から「分割行動の発達—分数教育への提言—」で博士号を授与されたこと、今年の4月には東京未来大学に教授就任されたことをお伝えしました。新保先生は、最近になってまでも、馬場先生に英語で国際学会に発表するよう、励ましの手紙を下さっていますので、彼女は一刻も早く塚本弘之先生と、新保先生に朗報をお伝えしたかったろうと思います。なお、塚本先生は座間市でお元気にお過ごしです。新保先生は流動食を鼻から管を通して入れておられるものの、「これも慣れればなんと言いうことはない」と快活におっしゃいました。また、毎日ラジオ体操をしているとおっしゃるので、「へえ、手と足を動かすのですか」と聞きますと、「手だけさ、ははは」と笑われました。傍らに『ラジオ深夜便』が置いてあ



 株式会社 中部設計

代表取締役 中 瀬 壽

本社 〒930-0029 富山市本町10番2号
TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

 多木 肥料

芝生と肥料と農薬

(株)岡本清右衛門商店

TEL 0766-24-0230
FAX 0766-24-1197

総合建設コンサルタント



信頼のおける技術で社会に貢献する

株式会社 建成コンサルタント

代表取締役会長 東 原 寛
代表取締役社長 齊 藤 紀 男

本社 〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1
TEL 0766(25)6097 FAX 0766(25)5697

理化学器機・産業器機 計測・試験機器

山 本 理 化
山 本 文 雄

〒930-0887 富山市五福二区5369

TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659
E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp

り、これが晴朗な気分の根源ではと想像しました。私はというと、夜中の1時、2時は料理や片付けをしていることが多く、4時ごろは、ばく睡中なので評判の『深夜便』は聞いたことがありません。小杉地内で偶にお会いするのは、萩原博先生、松田重生先生、丸山義博先生で、お元気です。もし、街角で私たちを見かけられたら、是非、皆さんの方からお声を掛けてくださいませ。

田中 祥子

富山県立技術短期大学

応用数学科 助教授 (1965.4-1989.3)

【現在】

高岡法科大学 法学部 教授 (射水市在住)

い変遷を経てきました。

これは、短大としての技術教育および就職がいかに難しいかを物語っています。できるだけ早い時期に4年制への移行を期待しております。

高倉 盛安

富山県立技術短期大学

衛生工学科 教授 (1964.4 - 1991.3)

富山県立大学短期大学部

環境工学科 教授 (1990.4 - 1993.3)

県立技術短大時代を振り返って

高倉 盛安

私が県立大谷技術短大へ赴任したのは開学3年目の昭和39年4月です。所属は開学2年目に設置された衛生工学科で、担当科目は水質化学と水質分析法です。

したがって、第1回衛生工学科入学生が2年生になった時からです。

当時、衛生工学とは新しい学問分野で、この名称を冠した学科は数年前に設置された北大と京大のみで、短大では本学のみでした。

そのため、2年間で社会のニーズに対応できる技術教育をどこまでやるかということで大変悩みました。

その結果、かなりハードなカリキュラムを編成し、その後、10年あまり続けました。その間、学生諸君はよく勉強してくれたと思います。実験・実習で晩8時、9時になることもしばしばでした。

一方、昭和40年初頭から公害問題が顕在化し始め、水質汚濁や大気汚染が大きな社会問題となってきました。

しかし、それらに対応できる技術者は行政や企業関係には極めて少ない状態でしたから、学生の就職状況は良好でした。就職後はそれぞれの分野で活躍され、今日に至っていることを大変嬉しく思っています。

ところで、昭和37年4月、機械科、農業機械科および応用数学科の3学科で発足しましたが、翌年4月、衛生工学科と草農業科の2学科増設、昭和45年4月、農林土木科増設、昭和47年4月、大谷を削除して県立技術短大に名称変更、昭和55年4月草農業科を農学科に改組、平成2年4月、県立大学短期大学部、環境工学科および農業技術学科の2学科として発足し、その後、2学科を改組して環境システム工学科と生物資源学科となり、現在は環境システム工学科1学科のみになったと聞いていますが、その推移をみますと、かなり著し



ごくろうさまでした

中島前学長の退職記念祝賀会

平成13年から今年の3月まで第3代富山県立大学の学長として活躍された、中島恭一氏の退任記念祝賀会が6月29日、富山第一ホテルで開かれ、関係者160人が前学長の功績をたたえ労をねぎらった。

はじめに発起人を代表して田中正人学長が中島前学長の経歴および業績を紹介して「これからも大学に対して指導をお願いします」と述べ労をねぎらい、斎田道男副知事、西頭徳三富山大学長からのお祝いのことばがあり、前学長と妻の晃子さんに記念品と花束が贈られた。

中島前学長は「チャレンジの連続の日々であったが、やりがいのある充実した日を過ごせた」と感謝の言葉を述べた。それから祝宴に移りアトラクション等もあり和やかな雰囲気祝賀会がおわった。

同窓生の皆様に

富山県立大学学長 田中正人

この4月に富山県立大学の第4代学長として着任いたしました。ご卒業以来、各所でご活躍の同窓生の皆様に、この場を借りてご挨拶申し上げ、さらに富山県立大学の最近の状況をお知らせする機会を与えていただき、大変嬉しく思います。

ご高承のとおり、富山県立大学は前身の富山県立技術短期大学をベースにして平成2年に開学して以来、この春で18年目に入りました。この間、過去三代の藤井学長、川端学長、中島学長の献身的なご努力とリーダーシップ、また県当局の手厚いご支援により、富山県立大学は着実に発展を遂げ、確固たる基盤を築くことができました。

平成18年の4月から、工学部は機械システム、知能デザイン、情報システム、生物工学の4学科体制になり、それぞれに大学院の修士課程、博士課程、また短期大学部には環境システム工学科とその専攻科を置いて、独創的な学術研究と高度な技術開発力を持つ人材育成に努めています。

また社会で活躍できる有能な人材を育てる大学として、学生を効果的に支援して確実に成長させる質の高い教育に努めており、全国トップクラスの就職率を背景に「就職に強い大学」としての評価を得ています。今年度は、キャリアセンターを設置して組織的、体系的なキャリア形成支援を行なうことにより、高い職業意識とコミュニケーション能力やチャレンジ精神など社会が求める資質・能力を備えた人材の育成に力を入れています。

さらに、社会に貢献し、地域の発展に役立つ大学として、地域連携センターを拠点に地域企業との研究交流や成果の技術移転など、地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。

21世紀の重要な課題である「自然環境とも調和した持続可能な循環型社会の実現と安全・安心で豊かな人間生活の創造」を目指して、富山県立大学はますますその存在意義を高めていくことと思います。

同窓生の皆様におかれても、富山県立大学の発展にご支援を賜りたく、よろしくお願い致します。



田中 正人 新学長

1942年12月27日生まれ。

1965年3月東京大学工学部卒業、東京大学教授、

2004年3月東京大学定年退職、

2007年4月富山県立大学学長

富山県立大学同窓会の
一層の発展を願って

富山県立大学前学長 中島 恭一

平成2年10月に富山県立大学に赴任し、16年半の勤務を終えて、この3月に退職した。前任の姫路工業大学（現兵庫県立大学）での23年半を加えると、40年間にわたって公立大学で働いたことになる。この40年間で振り返ると、戦後復興を遂げた日本が高度成長時代を突っ走り、やがてバブルがはじけて、長く厳しい経済不況に陥るといって激しく変化する時代であった。同時に、公害問題など高度成長の弊害が表われ、世界的にも地球温暖化をはじめ環境問題が顕在化するなど、21世紀への課題が鬱積する時代でもあった。富山県立大学が開設して間もなくバブルがはじけ、学生の就職難時代を迎えるとともに、少子化が進行し、21世紀を前にして大学は厳しい競争時代に直面する。

こうした変化の中で、平成13年4月に思いもかけず学長に選任され、大学の管理運営に携わることとなった。競争と個性化の時代にふさわしい、存在感のある大学にしなければとの思いで、様々な改革に取り組んだ。時代のニーズに対応した学科の改組・改編、確かな出口保証のできる教育システムの改革、地域の発展に貢献できる産学公連携の強化、など富山県立大学が地域における知の拠点としての役割が果たせるよう、全力をあげて取り組んできた。

しかし、大学生活を通じて最も掛け替えのないことといえば、教育研究や指導を通して多くの学生と交流できたことであろう。講義を通しての交わりもあるが、卒業研究で毎年新しい学生を研究室に迎え、議論し、悩み、また楽しみながら共に交わり、最後は社会に送り出す。毎年その繰り返しだが、フレッシュな感覚の学生との出会いは、自分自身もフレッシュにし、活性化させてきた。まさに、大学教員としての醍醐味だったと言える。

また、大学で教えた卒業生が社会へ出て活躍する姿を見ることは、教員を務めた者としてのこの上のない喜びである。前身の技術短大の卒業生を含めると既に社会で活躍している方は多いが、今後県立大学開設後の卒業生からも社会や地域をリードする多くの方が出ることを期待している。時代の変化や社会のニーズを的確に把握し、今後の技術発展に貢献できる活躍をしてほしいと願っている。

私の経験から言っても、同じ大学で学んだ同窓生が卒業後も互いに交流を続け、社会での経験・体験を分かち合うことは極めて有意義なことである。一昨年に一本化された県立大学同窓会が、同窓生の活発な交流の場として、また県立大学への良き協力者としても、大きく発展することを切に願っている。私も今後とも富山県に住み、卒業生の活躍と同窓会の活動を見守ってゆきたいと思っている。





私の好きなもの



松浦 彰英（まつうら あきひで）
技術短期大学応用数学科 1973 年卒業

①囲碁

最も長く続いている好きなものが囲碁である。確か20才くらいの青春時代に始めたはずで、「他にすることなかったの?」と言われそうな趣味である。

きっかけは、応数の先輩が囲碁同好会を作ったので後輩の我々が動員される形で参加したのがそもそもである。先輩が少し上手で、他は皆初心者。皆初心者なのに、しかし私だけがコロコロ負ける。通常なら少しつきあって、勝てない囲碁から離れていくのが私の定石なのだろうが、このときは少し違ってみたい。下宿近くの基会所へ毎夜一人で（密かではなかったと思うが）通ったと思う。そのうち力がついて私の一人勝ち。皆囲碁から離れていった。

大学祭の大会で、いい成績を上げ（機械科の先生に勝って?優勝?）ますますのめり込んでいった。基敵にも恵まれずとおつきあいが続いている。50才前に5段が目標だったが、しょせん凡夫の身、その壁は未だに破れていない。

②登山

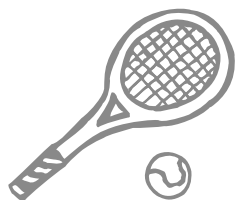
海も山も自然が満喫できる富山に暮らしたのに、しばらくは立山、剣に足が向かなかった。それは私が山の出身だから。山で生まれ山で育ったのに、何を今更。まあ、一日中さわやかな高山を歩き続ける登山の快適さを知らなかったのだが、これも最初は学生時代。山好きの同宿人が企画した大日岳登山同級会に参加した。あいにくの雨模様だったが、体中の水分を汗にして喉がカラカラになってクタクタだった。でも夕方テントでいただくビールとカレーのうまかったこと。それ以来やはりのめり込んで、北アルプスはいたいが歩いたと思う。特に何年かがかりで歩いた僧ヶ岳から剣までの山行は忘れられない。

③テニス

卒業後大学のコンピュータ室（センター）に20年間お世話になった。夏は涼しく冬は暖かい職場で、汗を流したかったのか自然に大学のテニスコートに足が向かったようである。上手にはならなかったが、寒暖に関係なく屋外で爽やかな(?)汗を流した。

《近況報告》

いずれも大学に関わりのある「好きなもの」になりました。富山県には、学生時代から通算して36年間お世話になりました。ありがとうございました。暇だろうからと「千瓢」の原稿を依頼されました。現在は故郷である新潟県の弱小山寺の仕事をしています。基敵はいないのでインターネット上で、登山、テニスのかわりに草刈りや耕耘、山菜採りで汗を流しています。



石灘 一寛（いしなだ かずひろ）
工学部機械システム工学科 2006 年卒業

①インテリア

大学に入った頃からインテリアに興味を持つようになって、よくインテリアショップや雑貨屋などに行くようになりました。お洒落な家具や雑貨は見ているだけで楽しいですね。時間が経つのも忘れてしまうほどです。自分の部屋もお洒落になるよう、奮闘中です!

②写真

写真は見るのも撮るのも好きです。撮るといっても自分のカメラは持っていないので、今は専ら携帯電話での撮影なんですけどね。絶妙なシャッターチャンスを逃さず写真に残せた時は感動的です。いい写真をこれからたくさん残していきたいと思います。

③お酒

学生時代に居酒屋でアルバイトをしていた経験もあってか、お酒を通じて得られたことがたくさんありました。お酒は奥が深いです。そして、何よりもお酒を介して友人と話す時が最も楽しい時間ですね!週末には会社の同期や、学生時代の友人達とよく飲みに行きます。最近はお酒が趣味になりつつあったりして。

《近況報告》

会社に入ってからあっという間の1年間でした。まだまだ社会人として不安になることもあります。が、確実に自分の中で得られたこともあります。だから今はまだ一步一步前に進んでいくしかないのだと思っています。

前澤 邦彦（まえざわ くにひこ）
工学部教養教育 教授

①実験

原稿依頼に来られた編集の方に、「先生の場合は実験でしょう」と言われました。同じ物理の福原先生に言われます。「実験をやっているときが一番楽しそうですね。」確かに、会議やいろいろな資料を作っているときの辛さから開放されて、結晶作りや実験装置作りをしているときは楽しいです。最近やりませんが旋盤を使うことも大好きです。

②山と緑

高校生の頃でしたが、長野県の霧ヶ峰というところに林道を作る計画が持ち上がりました。そこは高山植物の宝庫で湿地帯もありました。反対運動が起こり、その様子は新田次郎の「霧の子孫たち」という小説になりました。この頃から自然の中を歩くことが好きになりました。

③演劇

定期的に演劇を見ているというだけのことですが。「三文オペラ」、「上海パンスキング」などが印象に残っています。最近の作家では井上ひさしが面白いと思います。

《近況報告》

相変わらずです。私の容量では、授業と研究と大学運営に関わる業務で一杯です。時々オーバーフローしますが、そのときは周りの方々に助けてもらっています。

二口 恵 (ふたくち めぐみ/旧姓:山崎)
工学部機械システム工学科 1994 年卒業

①お笑い

よく“M-1グランプリ”などのお笑いDVDをレンタルし、家で見て大笑いしています。笑うことはいいです。気分もすっきりします。“笑いじわ”が気になりますが・・・(きびしい!!)

②おしゃべり

昔から大好きです。会社の人とも立ち話を平気で一時間位してたりします。いわゆる“井戸端会議”(おばちゃん化してます)。嫌なことあると周りにしゃべらないとストレスたまっちゃいます。上司からは「二口さんは名前の通り二つ口があるからおしゃべりなんだな」なんて言われたりしますが、生まれ持った性分と割り切ってます。

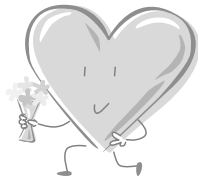
③わが娘

“もの”ではありませんが、やはり一番大好きな(大切な)一人です。甘やかしすぎて、かなりわがまま娘で体も大きく(娘に怒られます)形成されてしまいましたが、可愛くって仕方ないです(“親ばか”で恐縮です)。今後も我が家の愛らしい“ぷくぷく天使”の成長ぶりを見守り続けていきます。



《近況報告》

今の会社も気づけば“10年選手”を超え中堅の年代。仕事の責任や色々な重圧に押しつぶされそうになりながらも、何とか楽しいことを見つながら日々過ごしています。最近はメタボと体力の衰え対策のために「リブズブートキャンプ」を始めようと試みているところです(気持ちだけで未実施ですが・・・)。



金岡 寿也 (かなおか ひさや)
技術短期大学農業機械科 1981 年卒業

①お酒

さて好きなものはいろいろあります。やっぱり最初に出てくるのは、富山湾の幸と美味しいおさけでしょう。(よく飲みすぎて帰って颯壁をかっております)

②タイガース

タイガースがすきです。阪神タイガースでなくて、タイガースなのです。あの球団は阪神がオーナーでなかったら、もっと優勝している筈なのです。

③高校野球

さて好きな物(事)はいろいろとあります。今というか、この時期一番凝るのは、やはり高校野球。馬鹿息子が卒業して、三年目というのに、まだ追っかけをやっている次第です。先日は二上工業へ行ったら、熊出没注意の看板が出ていて、ビックリしました。自分がやらなかった事を、一生懸命やっている子供達に憧れているのでしょうか。同じ年齢の頃、怠惰に流され、愚行を重ねた自分が、情けなくて情けなくて…。日が昇る遙か前から、はいずり回って仕事をしているのは、当時のツケが今に回って来たのだと思っています。もう一度青春?に戻って大声出して、応援してきます。



4 代目

答えは、今年4月に学長になられた田中正人学長は富山県立大学の4代目の学長です。平成2年富山県立大学開学、初代学長に藤井澄二氏就任、平成9年2代目学長に川端昭氏就任。平成13年第3代目学長に中島恭一氏就任。そして今回、第4代目学長に田中正人氏が就任されました。

建設コンサルタント・補償コンサルタント
調査・測量・計画・換地・補償・監理

朝日コンサルタンツ株式会社

代表取締役 森 永 晃
(農林土木科 第1回卒)

本社 〒935-0023 氷見市朝日丘 4-29
TEL(0766)74-0774(代) FAX(0766)74-0894

登 録

●建設コンサルタント建15-788号 ●測量業第12-624号
●補償コンサルタント補15-101号 ●一級建築士事務所第3-1232号
●労働者派遣業 特(16)300217号

営業品目
●建設コンサルタント ●地上・衛星測量 ●地図データ作成
●補償コンサルタント ●航空測量 ●システム開発、販売



株式会社 上 智

代表取締役 社長 楠 則夫

本社 砺波市千代 176-1 TEL(0763)33-2085(代)・FAX(0763)33-2558
支店 富山・県東部・南砺・高岡・射水・小矢部・石川・新潟
中四国・香川・近畿・あわじ・山口・三重・和歌山・京都・東北

美しい自然、快適な地球を目指して

○環境アセスメント・土壌調査・菌試験・温泉・水道水分析
○環境調査・水質・大気調査・生物・プランクトン調査

株式会社 安全性研究センター

代表取締役 守崎 昌彦

〒930-0809 富山市興人町2番62号
TEL 076-431-6810 FAX 076-431-2809

NITTOC

日特建設株式会社

執行役員北陸支店長 按 田 純 輝 (S46.草農卒)
営業部長 荒 木 甫 (S40.衛工卒)
富山営業所長 多 賀 隆 之

北陸支店 〒950-0864 新潟市東区紫竹5丁目26番1号 TEL 025-241-2234 (代)
富山営業所 〒930-0916 富山市向新庄町8丁目4番50号 TEL 076-452-2766 (代)

富山県立大学同窓会会則

第1章 名称・目的・事務局

- 第1条 本会は、富山県立大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の親睦を計るとともに、富山県立大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会の事務局は、富山県立大学内に置く。

第2章 会 員

- 第4条 本会は、次の者を会員として組織する。
- (1) 正会員 富山県立大学及び富山県立大学大学院工学研究科・短期大学部専攻科卒業生、富山県立技術短期大学及び富山県立大谷技術短期大学の卒業生または理事会の承認を得た者
 - (2) 準会員 富山県立大学学生及び富山県立大学大学院工学研究科生・短期大学部専攻科学生
 - (3) 特別会員 富山県立大学現旧教職員並びに富山県立技術短期大学または富山県立大谷技術短期大学旧教職員
2. 全会員は、本会の円滑なる運営と一層の発展に努めなければならない。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員を置く。
- (1) 会 長 1名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 理 事 若干名
 - (4) 監 事 若干名
2. 役員は、正会員のうちから総会において選出する。
- 第6条 役員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条 役員の職務は次のとおりとする。
- (1) 会 長 本会を代表し、会務を総理する。
 - (2) 副会長 会長を補佐し、会長に支障のあるときはその職務を代行する。
 - (3) 理 事 本会の重要な事項を協議する。
 - (4) 監 事 会務及び会計を監査する。
- 第8条 本会に、名誉会員及び顧問を若干名置くことができる。
2. 名誉会長は、富山県立大学学長がこれにあたる。
顧問は、理事会の推薦に基づき会長が委嘱する。
 3. 名誉会長及び顧問は、本会の運営等について会長の諮問に応ずるものとする。

第4章 会 議

- 第9条 会議は、総会及び理事会とし、会議の議事は出席者の過半数をもって決する。
2. 会議は、会長が召集する。
 3. 理事会は、会長・副会長・理事をもって構成し、会長が必要と認めるときに召集する。

第5章 総 会

- 第10条 総会は、毎年1回会長が招集し、次の事項を議決する。
- (1) 役員の選出に関する事。
 - (2) 会則の変更に関する事。
 - (3) 事業に関する事。
 - (4) 本会の収支予算及び決算に関する事。
 - (5) その他。
2. 会長は、前項の規定にかかわらず必要と認めたときは、臨時総会を開くことができる。

第6章 事 業

- 第11条 本会は、会報及び会員名簿を刊行する。
- 第12条 本会は、前条のほか臨時に理事会の決定により、次の事業を行うことができる。
- (1) 本会会員または関係者で本会に特に功労があったと認められた者に謝礼の贈呈または表彰。
 - (2) 本会に寄付またはそれと同等の行為を行った者に謝礼の贈呈。
 - (3) 会員外の者で、本会の依頼により本会の事業に従事し、あるいは支援した者に謝礼の贈呈。
 - (4) 会員の死亡、あるいは不慮の災厄に対して、弔意または慰籍。
 - (5) その他理事会で定めた事業。
- 第13条 本会は、大学の発展に寄与する次の助成事業を行うことができる。
- (1) サークルへの助成。
 - (2) 記念事業への助成。
 - (3) その他の助成。

第7章 会 計

- 第14条 本会の経費は、入会金・年会費・寄付金及びその他の収入をもってこれに充てる。
- 第15条 正会員は、入会金及び年会費を納入しなければならない。
2. 入会金の納入は、原則として富山県立大学または富山県立大学大学院工学研究科・短期大学部専攻科入学時とする。(但し、富山県立大学大学院工学研究科・短期大学部選考加入学生のうち富山県立大学より進学の者は除く。)尚、すでに納入した入会金はこれを返還しない。
 3. 大学院・専攻科進学者及び編入学者は年会費を1/2に減免される。
 4. 入会金及び年会費は細則で定めるものとする。
- 第16条 毎年の決算は会計監査を受けなければならない。
2. 予算及び決算は、総会で承認を受ける。
- 第17条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終わる。

第8章 支部及び分会

第18条 本会は、各地に支部及び分会を置くことができる。

第19条 本会は、支部及び分会の活動に対し支援を行うことができる。

附 則 この会則は、平成18年10月1日から施行する。

附 則 富山県立大学工学部同窓会と千瓢会（短大部同窓会）を合併し、平成17年10月1日より富山県立大学同窓会とする。

細 則 入会金は、10,000円とする。
年会費は、2,000円とする。



同窓会徒然

同窓会の総会をひらき、参加者が少ないのはさびしいものです。その時々、の会長さんや実行委員長さん役員の方々が知恵をしばり多くの方に参加してもらえるように、あの手この手の方法を考えてこられたと思います。そのことを思いつくまに書いてみようと思います。

富山県立大谷技術短期大学の同窓会としてスタートした当初は手探り状態でした。その間30年間会長を務めた吉田定男さんの苦労はたいへんだったと想像されます。その間、田村学長さんの時代には学長（教職員の方々を含む）と同窓生の対話の場を設けて話し合いを行い、これは好評で数年続きました。大学の現状が同窓生にわかり、同窓生から学校への要望を伝える場として機能していました。

第2代の荒木会長になり、富山県立大学開学10周年のときの同窓会はユニークな会になった。デスクジョッキーの赤坂泰彦を呼びホテルの会場をラジオ局に見立てて会が進行した。長井弘仁さんのアイデアだ。なかなか面白かった。

総会の持ち方は、試行錯誤を重ねて、5年間とか卒業年度別の集まりを中心に開いてきたが、平成13年度から富山県を6ブロックに分けて（富山、高岡・氷見、新川、上婦負、新湊・射水、砺波・小矢部）ブロック別で開催することになりました。その第1回の上婦負ブロックの実行委員長柞山明さんは環境問題が同窓会の活動として重要と考え、江森陽弘氏（ジャーナリスト）を呼び、「これからの地球を考える」という演題の公開の講演会をひらき好評でした。平成14年の総会は万葉学者の中西進先生を招いての格調の高い講演会になりました。平成17年度の実行委員長は前田喜芳さんで講師は元巨人軍の中畑清氏。ちょうど中畑氏の監督問題が起きてやきもきしたが何とか開催にこぎつけた、前田さんらの苦労は報われ今までの最高の参加者を数えた。この年から同窓会が一本化して富山県立大学同窓会が誕生した。去年は本格的に一本化して最初の総会で、作曲家の聖川湧氏を招き、楽しい総会が開けた。そして6ブロック全部一回りして、今年からまた新しい模索が始まります。ちょっと心配ですが、また楽しみでもあります。

(T・I)

株式会社 日水コン

代表取締役社長 清水 慧

名古屋支所長 篠原 弘則

☆上水道、下水道及び工業用水道 ☆治水、利水及び河川、湖沼、沿岸海域に係る環境管理などに係るコンサルティング

本社／163-1121 東京都新宿区西新宿 6-22-1 新宿スクエアタワー
☎ (03)5323-6200(代)
名古屋支所／☎ (052)681-3311(代)・北陸事務所／☎ (076)441-8210(代)



あなたのスポーツみつげよう

特定非営利活動法人

ふちゅうスポーツクラブ

理事長 柞山 明 (農学科第12回)
理事 加藤 輝夫 (機械科第24回)

TEL 076-466-4333
<http://www.fuchusports-c.jp>



水門・橋梁・河川水消雪・ポンプ設備
ミニ発電設備・パイオ関連事業・設計・製作・施工
水機工業株式会社

代表取締役 野村 幸三

〒939-8214 富山市黒崎 172
TEL (076)491-2533
FAX (076)423-3368

好きになる街。活性提案。

NIX
ニックス [niks]

代表取締役社長 市森 友明

株式会社 新日本コンサルタント

総合建設コンサルタント／都市・環境総合シンクタンク



<http://www.shinnihon-cst.co.jp>

本社：〒930-0142 富山市吉作 910 番地の 1
TEL: 076-436-2111 / FAX: 076-436-2260
事務所：小矢部／営業所：新川・中新川・射水・高岡・南砺・大坂

●建設コンサルタント
●都市・地域計画
●上下水道計画
●建設社会資本の維持・管理
●調査・設計
●環境システム開発
●環境コンサルティング
●建設設計監理

同窓会日誌

2007年3月1日～2007年8月9日

No. 6

この日誌は富山県立大学同窓会の山口郁子事務局長の日誌です。同窓会のホームページに載っているものを今回「千瓢」に掲載しました。時々ホームページを見てください。最新の日誌が載っています。(HPは現在工事中です)

《2007年》

●3月1日(木)

午後、岩脇実行委員長が事務局へ来られた。16日に行う第1回実行委員会の打ち合わせ。実行委員を引き受けてもらえるよう電話をしたり、案内文をメール・郵便を送ったり、当日のレジメを作成する。

●3月6日(火)

暦の上では啓蟄なのに、とっても寒い日です。膨らんだ桜の蕾も小さくなっています。在校生は後期試験も終わり成績が出るのを待っているところかな。たまに単位を落とす学生もいて先生方も大変そうです。

●3月8日(木)

工学部の会員と千瓢会の会員のデータを結合して整え終わったので、今は先生方の動向を調べています。特別会員となるわけですが、在職期間もデータに加えたり学科名を会員のと合わせるようにしたりとなかなか煩雑です。

●3月22日(木)

昨日の富山新聞に短大部の滝本先生の研究成果が載っていました。広瀬先生に教えてもらわないと見逃すところでしたが、同窓会事務局が先生方との共有スペースのあるところへ引っ越したおかげさまでいろいろ情報がもらえて助かっています。

●3月26日(月)

昨日は大きな地震があり、ビックリ!!!短大部棟はとても古いので何か壊れているところがあるかと思いましたが、意外と頑丈で特に被害もなく大丈夫でした。短大部は四年制に向けて耐震補強をしなければという話をしていたところだったのですが、今回の地震に耐えたのだから大丈夫かな?

●3月27日(火)

教職員の移動が今朝の新聞に掲載されていました。同窓会と関係のある事務の方が移動してなくてホッとしています。今年の総会をさせていただく会場の選定で朝から電話をしているのですが、結婚式があったりイベントがあったりでなかなか決まりません。

●3月30日(金)

今朝も昨日電話をしていた会場の担当の方と見積もりの件で打ち合わせをしていました。会場によって対応が違うので戸惑っています。こちらも詳細が決まっていなくてどこでの依頼なのでかなりアバウトな話になってしまうのは仕方がないのです。

●4月2日(月)

今日から新年度です。大学にも新しい職員の方が来られフレッシュな感じです。大谷講堂近くの桜はもう満開で、4日の入学式を待っているようです。

●4月3日(火)

花冷えで寒い日です。4月になってから学内の暖房が切れてしまったので足元に自前のストーブをつけています。以前は暑くて困ったときもあったのに、なかなか融通がきかないお役所仕事みたいに感じるのは私だけでしょうか。

●4月5日(木)

同窓会入会金の徴収をしたのですが、今年は優秀で(?)短大部の方は全員がすぐに納めてくださいました。工学部のほうには若干名未納の方もいたのですが、金額・氏名を確認して早速

銀行へ入金して来ました。大金を扱うのでこの時期は神経を使います。

●4月12日(木)

朝から暖かくお花見日和です。主婦としては洗濯や掃除をしたらよいなあと思うので、仕事をして部屋の中に閉じこもっているのがもったいないような日です。

●4月16日(月)

以前にもしていたのですが、もう少し判りやすいようにと午前中から名簿データの整理をしています。同じ単純作業をしているので午後からはおなかもふくれて眠くなってきてしまい困っています。

●4月19日(木)

昨日の実行委員会を受け、仮予約していた会場のキャンセルの電話をしました。お願いするときも緊張しますが、キャンセルするの何となく申し訳なく電話のこちら側で謝っているしだいです。

●4月23日(月)

先週の土曜日の北日本新聞に新学長の記事が載っていたので切り抜き、掲示しました。新聞は大学には6紙も届いているのでなるべく目を通すようにはしているのですが、大学関連の記事を見落とすことも多く先生方から教えてもらうこともあります。

●4月24日(火)

短大部の存続に関する記事が新聞に載っていました。今の時代、短大は不要になってきているのでしょうか。現実においてもこの短大部の卒業生の進学・編入率は年々上がってきているし・・・2年間はあつと言う間だし、4年間かけてじっくり学ぶのはよいことかもしれません。

●4月26日(木)

しばらくサボっていた会計を整理していたのですが、ミスに気づきあわててしまいました。4月に入ってから入会金を納めに銀行に行っていたし、通帳にも記帳していたのですが2月3月は特にお金の出し入れもなかったのとうっかりして、2月に支払うべきものを支払っていなかったとは・・・ちょっとショックでした。

●5月7日(月)

休みボケでボーっとしていますが、朝一番にパソコンのメールをチェックしていたら不要メールが100通以上もあってウンザリです。迷惑メール対策をしているのですが、なかなか思うようにはなりません。困ったものです。

●5月14日(月)

前学長・新学長に「千瓢」の原稿依頼をしました。新学長のところへ行くのは初めてだったのでちょっとドキドキしながら学長室へ行きました。とてもやさしくソフトな感じでした。

●5月16日(水)

機関紙「千瓢」の広告依頼をしました。去年は創刊号であった為ちょっとお願いしにくいところもありましたが、今年は見本となる機関紙があるのでお願いし易かったように思いました。

●5月21日(月)

先週お願いした企業から早速広告OKの返事が届きました。なかなか出足は好調かな?

●5月24日(木)

以前パソコンがだめになりデータがなくなっているの、原稿依頼文を作るのも大変です。古い資料を探し出してから手直しをして打ち込むのですが、その見本となる資料がなかなか見つからなくて・・・。

●5月31日(木)

作成した原稿依頼文を編集長にチェックしてもらったので早速お願いの電話をしてから詳細なメールや手紙を送りました。

●6月1日(金)

開学記念日で大学はお休みです。

●6月6日(水)

田中学長にお願いしていた原稿の確認に学長室へ行きました。まだ締め切りには日があるのですが、でも学長は「今日・明日には時間を作って書きますよ」と嬉しいお返事をくださいました。

●6月7日(木)

なかなかお会いできなかった先生に原稿依頼をすることができました。私が学生だったころからおられる先生なのでとても気安くお話ができて頼みやすくて助かりました。

●6月8日(金)

広告の訂正 FAX を頂いたのですが、あまりにも字が小さくてわからないので確認の電話をしました。老眼が進み、細かい字が読みにくなっているのもあるのですが・・・。

●6月12日(火)

原稿の締切日が迫ってくる中でまだお願いもできていなかった方にやっと今日 3 人の方と連絡がつき原稿依頼をしました。やっと一安心です。あとは締め切りまでに書いていただけることを祈るばかりです。

●6月13日(水)

原稿依頼をした方々のリストを編集長にメールしました。なかなかはっきりした報告ができなくて編集長には心配をかけたかな？

●6月14日(木)

朝から入梅したような雨が降り、じめじめしています。事務局のある部屋はとてもひんやりしていて朝晩とても寒く、今日やっとストーブを片付けてもらいました。

●6月15日(金)

原稿依頼をしていた田中祥子先生から原稿が添付されたメールが届きました。皆さんこのように締め切り前に原稿が届くと助かるのですけどねえ・・・。

●6月18日(月)

わたしの好きなもので原稿依頼をした松浦さんからの原稿が届きました。かなりお願いしていたよりも長い文章だったので編集長にお伺いを立てました。

●6月19日(火)

元学長中島先生からの原稿が届きました。メールで原稿が届くようになったので以前のようにこちらで打つ作業が省かれずいぶん助かっています。

●6月26日(火)

池上編集長の所で編集会議。少し集まっている原稿はメールで送ってあるのですが、大学関係の新聞記事も持って行きま

めてもらう予定です。ここ一年で県立大学の先生方の研究成果が結構新聞に載っていることにあらためてビックリしました。

●7月18日(水)

広告の初稿があがり昨日のうちに企業のほうへチェック依頼をしたのですが、早速今朝から電話がありました。早い反応に感謝感謝。

●7月20日(金)

午前のバイトさんが今日で辞められます。今まで部屋を空けていても気心のわかる方にお任せでずいぶん助けられました。今月いっぱいには午前中に誰もいないので少しさびしいなあ。

●7月23日(月)

小中学校は夏休みですが、大学はまだ今月いっぱいには授業があります。このころには例年梅雨明けだと思いますが、今年はまだ見たいです。冬に雪が降らなかったからいろいろと気候が変なのかな？

●7月24日(火)

「千瓢」の原稿がほぼ揃ってきて、あとは割付と編集長作成の原稿で紙面の調整をします。この作業に関しては編集長任せなので私の手を離れて少しホッとしているところです。

●7月25日(水)

理事会を今月中に開く予定にしていたのですが、参議院選挙もありなかなか日程が決まらず来月ということになりました。会長・実行委員長とも相談のうえお盆休み前にということで 10 日に決定しました。メールアドレスのわかる方も多くなり以前のように郵便だけではなくメールで案内を出すことができるようになります。いぶん助かっています。

●8月3日(金)

池上編集長と「千瓢」の打ち合わせ。集まっている原稿の割付もして、だいたいの編集ができてきました。あとは封筒のデザインもお願いして早めの仕上がりをまっています。

●8月6日(月)

発送を依頼する業者と封筒の体裁・内容の確認をしました。まだまだ作成途中で完全な話ではないのですが、印刷の前の確認です。担当の方が変わられたのですが、以前の方も事務所にはおられるとの事で話がしやすくて助かりました。

●8月9日(木)

技術短大応用数学科卒業生向けに総会案内の葉書を出しました。お盆に帰省したりして実家で葉書を見てもらいこの機会に行こうかなと思ってくださることを願っています。



総合建設コンサルタント

株式会社 協和

代表取締役社長 藪内 克義

本社 富山県高岡市北島1406

TEL 0766-22-2100/FAX 0766-22-7602

富山支店/氷見支店/射水支店/南砺支店/新川支店/関西出張所



北建コンサル株式会社

一級建築事務所

測量・調査・設計・補償

代表取締役社長 鷲北 義弘

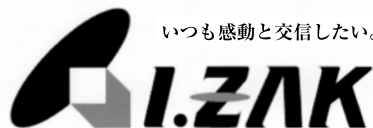
富山県高岡市内免3丁目3-6 〒933-0941

TEL(0766)23-3666(代) FAX(0766)23-3987

地産地消ってなに？

地元産が一番フレッシュ
いただきます！富山

富山県JAグループ



いつも感動と交信したい。

アイザック 石崎産業株式会社

代表取締役社長 石崎 由則

本社 魚津市大海寺野 1181 TEL(0765)-24-6000
環境事業本部 富山市米田町 3-3-33 TEL(076)-438-1638
ISO 14001 No.E259



探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

安達 真澄 (技1 機械)	西田 正行 (技7 農機)
池上 忍 (技1 機械)	田中 和彦 (技10 農機)
野崎 健 (技1 機械)	松浦 茂 (技10 農機)
藤井 義明 (技1 機械)	小川 正夫 (技13 農機)
笹岡 正保 (技2 機械)	加門 進一 (技13 農機)
田中国男 (技2 機械)	稲田 信義 (技17 農機)
川波 俊夫 (技3 機械)	手操 清隆 (技19 農機)
神田 哲志 (技3 機械)	村上 善一 (技19 農機)
吉田 兼成 (技3 機械)	岩木 淳司 (技20 農機)
斉藤 徳和 (技5 機械)	草島 豊 (技21 農機)
長島 昌平 (技5 機械)	垣地 昭一 (技23 農機)
藤平 勝文 (技5 機械)	太田 隆康 (技24 農機)
山崎 慎一 (技5 機械)	斉藤 誠 (技25 農機)
蔵 豊 (技6 機械)	長谷川 利春 (技25 農機)
久湊 弘 (技7 機械)	横山 雄一郎 (技27 農機)
武内 清 (技8 機械)	片口 玲子 (技28 農機)
和泉 清孝 (技9 機械)	岡本 義典 (技28 農機)
得田 好信 (技10 機械)	田村 克巳 (技28 農機)
榎 進 (技12 機械)	奥田 都 (技1 応数)
牧野 栄昭 (技12 機械)	多田 仁子 (技1 応数)
原田 文雄 (技12 機械)	中田 教子 (技1 応数)
篠原 秀利 (技13 機械)	谷 睦子 (技2 応数)
永原 正憲 (技14 機械)	竹田 律子 (技4 応数)
栗田 昇 (技15 機械)	吉田 歌子 (技5 応数)
青山 栄治 (技16 機械)	清水 和子 (技5 応数)
飯野 敏雄 (技16 機械)	中山 裕美 (技5 応数)
西田 武国 (技16 機械)	森山 順子 (技6 応数)
田島 良三 (技17 機械)	須田 裕美 (技6 応数)
山田 正雄 (技17 機械)	斉藤 章子 (技6 応数)
田畑 仁 (技18 機械)	麻生 正子 (技6 応数)
堤 雄生 (技18 機械)	宮地 栄子 (技7 応数)
国谷 春名 (技19 機械)	宇野 順子 (技8 応数)
沢田 孝 (技20 機械)	成瀬 君代 (技8 応数)
渡辺 一弘 (技21 機械)	富田 恵子 (技9 応数)
釣崎 剛司 (技24 機械)	飯島 健治 (技10 応数)
中陳 昌三 (技24 機械)	田中 弘子 (技10 応数)
井澤 和央 (技25 機械)	小久米 典子 (技10 応数)
市川 雄一 (技25 機械)	山本 美子 (技12 応数)
今城 守 (技27 機械)	武内 康子 (技14 応数)
清水 敏弘 (技27 機械)	山内 芳明 (技15 応数)
森 雅人 (技27 機械)	吉村 真理子 (技16 応数)
米田 雄亮 (技27 機械)	大石 稔 (技17 応数)
大角 将義 (技28 機械)	野口 千香子 (技17 応数)
米道 貴広 (技28 機械)	常田 慶子 (技18 応数)
西村 宇裕 (技28 機械)	不破 好朗 (技18 応数)
柳浜 雄一 (技28 機械)	日吾 ゆり子 (技18 応数)
大場 信雄 (技2 農機)	磯 朱美 (技19 応数)
竹田 陸郎 (技3 農機)	植田 若葉 (技20 応数)
竹鼻 義之 (技3 農機)	山田 千秋 (技20 応数)
姫野 乙若 (技4 農機)	魚倉 令子 (技21 応数)
金子 弘行 (技7 農機)	桜井 寿子 (技21 応数)

松原 左知 (技21 応数)	正津 昌信 (技17 草農)
越野 澄子 (技24 応数)	小林 浩一 (技18 農学)
海野 愛 (技25 応数)	花房 勝則 (技19 農学)
中島 雄大 (技25 応数)	北角 年之 (技20 農学)
長谷 健吾 (技26 応数)	鎌仲 美由紀 (技21 農学)
二口 明子 (技26 応数)	近藤 健一 (技22 農学)
村上 千賀子 (技26 応数)	二上 満夫 (技23 農学)
萬里小路 弘知 (技26 応数)	岡田 恵美 (技24 農学)
塚本 淳 (技27 応数)	清水 史枝 (技24 農学)
三ツ山 茂元 (技27 応数)	杉田 英俊 (技25 農学)
古畑 正則 (技27 応数)	尾崎 平 (技26 農学)
岡本 麻記子 (技28 応数)	上保 里子 (技26 農学)
渋谷 徹 (技28 応数)	若井 幸一 (技26 農学)
棚 辺 豊 (技28 応数)	横山 正幸 (技27 農学)
西川 加津枝 (技1 衛工)	増山 稔 (技3 農土)
藤井 千廣 (技2 衛工)	安藤 均 (技3 農土)
藤田 美恵子 (技3 衛工)	曾原 幸二 (技5 農土)
宇都宮 広子 (技4 衛工)	村上 正 (技6 農土)
江尻 由美子 (技6 衛工)	川田 温 (技8 農土)
馬場 康子 (技7 衛工)	坂口 邦明 (技8 農土)
牛木 清 (技7 衛工)	矢田 由起美 (技8 農土)
高桑 昭 (技7 衛工)	池田 克司 (技9 農土)
另綱 春枝 (技7 衛工)	岡田 安平 (技9 農土)
松下 修 (技8 衛工)	水口 貫 (技10 農土)
柴 久美子 (技9 衛工)	大房 馨 (技12 農土)
清水 尚子 (技9 衛工)	金子 和人 (技12 農土)
加納 哲夫 (技9 衛工)	松本 久志 (技12 農土)
鞍田 安則 (技10 衛工)	黒田 研治 (技13 農土)
武田 竜二 (技10 衛工)	中野 貞治 (技14 農土)
野口 八重子 (技10 衛工)	北本 秀一 (技14 農土)
吉岡 茂明 (技14 衛工)	菅谷 修一 (技14 農土)
田添 由野 (技15 衛工)	長山 昌樹 (技14 農土)
道用 一彦 (技17 衛工)	森田 征典 (技19 農土)
梶川 篤子 (技19 衛工)	西川 栄治 (技19 農土)
林 睦子 (技20 衛工)	
梅本 乃里子 (技21 衛工)	
谷崎 友香 (技23 衛工)	
永川 恵美子 (技24 衛工)	
大場 茂 (技25 衛工)	
荻部 和江 (技25 衛工)	
小泉 豊 (技25 衛工)	
本瀬 泰二 (技1 草農)	
金井 彦一 (技4 草農)	
高柳 誠 (技4 草農)	
東 勇治郎 (技4 草農)	
安川 信義 (技4 草農)	
松井 久重 (技5 草農)	
大門 武雄 (技6 草農)	
近藤 達夫 (技7 草農)	
太田 康寛 (技10 草農)	
田村 裕 (技10 草農)	
寺尾 義隆 (技10 草農)	
中村 充 (技10 草農)	
池田 大三郎 (技11 草農)	
青木 伸彦 (技12 草農)	
廣田 美雪 (技14 草農)	
米山 史晃 (技14 草農)	
篠田 弘美 (技16 草農)	

〔短大部〕

後藤 さおり (短1 生物)
宮川 清章 (短1 生物)
湯島 香桜里 (短1 生物)
高山 望美 (短2 生物)
伊藤 みづほ (短4 生物)
清水 貴絵 (短4 生物)
櫛田 理恵子 (短5 生物)
坂田 さと子 (短5 生物)
柴 雅恵 (短5 生物)
鈴木 愛 (短5 生物)
野村 保江 (短5 生物)
福井 昌代 (短5 生物)
山田 美智子 (短5 生物)
原田 寛子 (短6 生物)
水口 寿恵 (短6 生物)
山藤 稔之 (短6 生物)
志津野 雅美 (短6 生物)
谷口 久美子 (短7 生物)
伊藤 由美子 (短9 生物)
本多 陽子 (短9 生物)
林 千裕 (短10 生物)
小森 美穂 (短11 生物)
神谷 敏広 (短12 生物)

千瓢

清水山	沙明子(短12生物)	織子(短12生物)	山今川	本川	隆宏(大1機械)	治一(大2機械)	大1機械	佐々木新居	隆宏(大7機械)	宏敦(大7機械)	杉山須藤	秀敬一(大5電子)	和一大5電子)
林健造(短1土木)			片山	山	泰宏(大2機械)	宏(大2機械)	大2機械	八川	佳平(大7機械)	宏(大7機械)	中澤	透(大5電子)	透(大5電子)
北村和康(短2土木)			北川	川	拓也(大2機械)	也(大2機械)	大2機械	安達	明知宏(大8機械)	宏(大8機械)	東井	稔(大5電子)	稔(大5電子)
桜井辰生(短2土木)			熊谷	谷	泰宏(大2機械)	宏(大2機械)	大2機械	山崎	浩平(大8機械)	平(大8機械)	藤井	直孝(大5電子)	直孝(大5電子)
谷和枝(短2土木)			杉山	山	匡生(大2機械)	生(大2機械)	大2機械	上田	覚児(大9機械)	児(大9機械)	岡野	敏也(大6電子)	敏也(大6電子)
梨木裕(短2土木)			橘		敬志(大2機械)	志(大2機械)	大2機械	五嶋	洋介(大9機械)	介(大9機械)	尾塩	和亮(大6電子)	和亮(大6電子)
野澤克治(短4土木)			西野	野	利一(大2機械)	一(大2機械)	大2機械	須加	淳一(大9機械)	一(大9機械)	加藤	純(大6電子)	純(大6電子)
北岡紀香(短6土木)			林弘		弘一(大2機械)	一(大2機械)	大2機械	伊原	康浩(大10機械)	浩(大10機械)	佐武	慎介(大6電子)	慎介(大6電子)
佐々木竜也(短6土木)			宮田	田	智章(大2機械)	章(大2機械)	大2機械	西谷	一光(大11機械)	光(大11機械)	高橋	理恵(大6電子)	理恵(大6電子)
幸脇百子(短7土木)			宮地	地	智謙一(大2機械)	謙一(大2機械)	大2機械	桶本	充悠(大12機械)	悠(大12機械)	竹内	久彦(大6電子)	久彦(大6電子)
荒木雅代(短8土木)			横山	山	豊誠(大3機械)	誠(大3機械)	大3機械	林奥	恵美(大1電子)	美(大1電子)	西山	崇博(大6電子)	崇博(大6電子)
北村要司(短8土木)			岡本	本	淳二(大3機械)	二(大3機械)	大3機械	川上	貴克(大1電子)	克(大1電子)	山口	高広(大6電子)	高広(大6電子)
竹中妙美(短8土木)			籠居	居	潤一(大3機械)	一(大3機械)	大3機械	木田	憲俊彦(大1電子)	彦(大1電子)	小林	修平(大7電子)	修平(大7電子)
谷口好美(短9土木)			角岡	岡	祐江(大3機械)	江(大3機械)	大3機械	坂元	博史(大1電子)	史(大1電子)	中田	香(大7電子)	香(大7電子)
森田真都(短9土木)			宮森	森	一宣夫(大3機械)	夫(大3機械)	大3機械	杉山	俊彦(大1電子)	彦(大1電子)	野村	貞輔(大7電子)	貞輔(大7電子)
家島章旨(短10土木)			五本	本	邦和幸(大3機械)	和幸(大3機械)	大3機械	高松	奈緒美(大1電子)	美(大1電子)	深川	岳彦(大7電子)	岳彦(大7電子)
加藤紗都子(短11土木)			佐藤	藤	康宏(大3機械)	宏(大3機械)	大3機械	丸中	和公(大1電子)	公(大1電子)	増田	耕平(大7電子)	耕平(大7電子)
亀田小百合(短12土木)			中川	川	浩賢(大3機械)	賢(大3機械)	大3機械	澤村	公嗣(大1電子)	嗣(大1電子)	松井	奈緒(大7電子)	奈緒(大7電子)
小林勝礼(短1環境)			中根	根	保康(大3機械)	康(大3機械)	大3機械	西山	真理子(大1電子)	子(大1電子)	三浦	健太郎(大7電子)	健太郎(大7電子)
鈴木和義(短1環境)			中保	保	朋寛(大3機械)	寛(大3機械)	大3機械	山口	哲貴光(大2電子)	光(大2電子)	渡部	忠司(大7電子)	忠司(大7電子)
野村明宏(短1環境)			藤井	井	水野	裕志(大3機械)	大3機械	井口	貴也(大2電子)	也(大2電子)	北嶋	隆了(大8電子)	隆了(大8電子)
中好美(短2環境)			本水	水	宮森	史朗(大3機械)	大3機械	大畑	久範(大2電子)	範(大2電子)	大宮	康宏(大9電子)	康宏(大9電子)
小森かおり(短3環境)			宮森	森	大弘	明仁(大4機械)	大4機械	丘山	直樹(大2電子)	樹(大2電子)	佐々木	勝治(大9電子)	勝治(大9電子)
小林規和(短4環境)			吉村	村	奥野	金子	直史(大4機械)	高橋	浩司(大2電子)	司(大2電子)	清水	彰人(大9電子)	彰人(大9電子)
安東美和(短5環境)			奥野	野	金中	元百	愛良(大4機械)	林	剛哲(大2電子)	哲(大2電子)	知野	明裕(大9電子)	明裕(大9電子)
木場千賀子(短5環境)			金子	子	中元	百三	俊光(大4機械)	松園	和宏(大2電子)	宏(大2電子)	宮村	友之(大9電子)	友之(大9電子)
柴崎奈美(短5環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	宮川	弥生(大2電子)	生(大2電子)	大原	寿規(大10電子)	寿規(大10電子)
藤根優香子(短5環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	柳瀬	加寿也(大3電子)	也(大3電子)	寺下	真理子(大10電子)	真理子(大10電子)
四方政樹(短6環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	余西	忠幸(大3電子)	幸(大3電子)	納村	憲一(大12電子)	憲一(大12電子)
高瀬祐希(短6環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	梅原	浩次(大3電子)	次(大3電子)	弘崎	真帆(大12電子)	真帆(大12電子)
杉山友佳子(短7環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	加門	智樹(大3電子)	樹(大3電子)			
浜川史亘(短7環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	木下	康之(大3電子)	之(大3電子)	植原	悟之(院前5機械)	悟之(院前5機械)
松平司(短7環境)			中元	元	百三	宅城	聖慈(大4機械)	柴田	篤志(大3電子)	志(大3電子)	劉	萍(院前6電子)	萍(院前6電子)
桶本泰(短13環境)			川出		黒川	智且(大5機械)	大5機械	新保	舞子(大3電子)	子(大3電子)	張	青(院前7電子)	青(院前7電子)
[工学部]			小須田	田	佐藤	由規(大5機械)	大5機械	中西	貴詞(大3電子)	詞(大3電子)	榎本	剛司(院前1生物)	剛司(院前1生物)
飯吉裕樹(大1機械)			柴田	田	諏訪	博之(大5機械)	大5機械	林深	亨(大3電子)	亨(大3電子)	藤原	勲(院前1生物)	勲(院前1生物)
今井田晋(大1機械)			鍋島	島	正人(大5機械)	人(大5機械)	大5機械	澤下	崇宏(大3電子)	宏(大3電子)	工藤	成史(院前3生物)	成史(院前3生物)
大倉透(大1機械)			速水	水	浩史(大5機械)	史(大5機械)	大5機械	吉本	順一(大3電子)	一(大3電子)	鷺家	真吾(院前3生物)	真吾(院前3生物)
小倉功才(大1機械)			山田	田	渡邊	一雄(大5機械)	大5機械	渡辺	司郎(大3電子)	郎(大3電子)	石川	直愛(院前4生物)	直愛(院前4生物)
暮石光浩(大1機械)			貴堂	堂	土田	優子(大6機械)	大6機械	池田	昌弘(大4電子)	弘(大4電子)	入佐	史郎(院前4生物)	史郎(院前4生物)
小谷正直(大1機械)			濱出	出	宮川	玄希(大6機械)	大6機械	石黒	智則(大4電子)	則(大4電子)	久留	智美(院前4生物)	智美(院前4生物)
猿山史朗(大1機械)			室谷	谷	山本	博久(大6機械)	大6機械	牛越	佳宏(大4電子)	宏(大4電子)	浅田	智久(院前6生物)	智久(院前6生物)
竹島秀人(大1機械)			米田	田	青井	俊朗(大7機械)	大7機械	先間	智弘(大4電子)	弘(大4電子)	林山	朋二(院後7電子)	朋二(院後7電子)
竹田昌市(大1機械)			浅田	田	小田	徹志(大7機械)	大7機械	辰口	佳世子(大4電子)	子(大4電子)	大沢	登(院後1生物)	登(院後1生物)
飛山哲一(大1機械)			栗山	山				辻	智弘(大4電子)	弘(大4電子)	菅原	保(院論文)	保(院論文)
中西誠一(大1機械)								永井	亮一(大4電子)	一(大4電子)			
中村健一(大1機械)								松岡	正孝(大4電子)	孝(大4電子)			
樋口俊司(大1機械)								池田	絵美(大5電子)	美(大5電子)			
不破勝(大1機械)								伊東	祐二(大5電子)	二(大5電子)			
前田耕司(大1機械)								浦林	拓也(大5電子)	也(大5電子)			
松井秀一(大1機械)								神林	寛(大5電子)	寛(大5電子)			
松本英樹(大1機械)													
水島裕享(大1機械)													
宮本博之(大1機械)													
山口秀一(大1機械)													

※()内について

(短6環境)

└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐
└──┬──┐<

研究室の近況案内

楠井研究室

短期大学部環境システム工学科

教授 楠井 隆史

<http://www.pu-toyama.ac.jp/ET/kusui.htm>

「人間と自然が共生できる社会の実現」を目標に化学物質の環境リスク評価（安全性評価）と廃水処理の高度化に取り組んでいます。現在、二年生 4 名の学生と、ムラサキガイなどを用いた海洋モニタリング法や微生物の動態に着目した廃水処理について研究を行っています。富山県環境科学センターや木材技術センターなど外部の機関、企業と共同研究を行う機会が増え、「安全」「安心」がまさに社会のキーワードとなってきたと感じています。研究室では、顕微鏡でないと見えない微生物から、ミジンコ、メダカ、最近ではゴカイなどの海洋生物の飼育にまで「挑戦」しています。9年前からかわって来た海洋の漂着ゴミ問題は、ようやく、現在は国レベルでも大きく取り上げられる問題となりました。こうした研究を通じて、中国、ロシア、韓国の研究者と話す機会が増えており、「地球環境」問題に取り組むための国際協力の必要性を痛感しています。

少子化に伴い短大には厳しい時代になってきましたが、学科の教員の力を合わせ、教育の充実を図っています。富山の水環境を体験・調査する「フィールド実習」や学科教員全員でまとめた水環境の研究の集大成ともいえる本「富山の水環境」をご覧ください（<http://www.pu-toyama.ac.jp/ES/index.htm>）。また、大学全体で、工学技術者として、環境に関する基礎知識と倫理観 - 「環境リテラシー」、を身につけた人材を養成するために、環境教育プログラムの開発を行っています。昨年度から始め、平成 19 年度は工学部・短大部の一年生全員を対象とした一泊宿泊を加えた「環境宿泊学習」に取り組み、企業見学や環境問題のグループ討論をおこない、環境への問題意識を深めてきました。

下手の横づきで始めたバドミントンも週～月 1 回程度、続けながら基礎体力を鍛えて、研究と教育を通じて「持続可能な社会」に貢献できればとささやかな努力を重ねる毎日です。

知能システム工学講座

工学部知能デザイン工学科

教授 大島 徹／講師 小柳 健一／助教 松野 隆幸

ロボットの基礎となる機械工学、電気・電子工学、情報工学、人間工学、福祉工学、医用工学、生物学、解剖学、整形外科学、生理学・・・あらゆる分野の知識を駆使し、あらゆる機器の高度なインテリジェント化をシステムデザインする研究者とその卵たちの集団です。

近年のロボット工学は、機械工学（メカニクス）と電気・電子工学（エレクトロニクス）が融合したメカトロニクス技術を基盤として急速に進展しました。ロボットが人間の生活の中に入り込んでくるのは、そう遠くない未来です。これまで機器としての性能を追求してきたロボット技術が、次に抱えた大きな課題のひとつに機器と人間との融合があります。知能システム工学講座では、高知能・高機能な人間に優しいシステムのデザインに主眼を置いて次の2つの方向から研究開発を進めています。

1. ヒューマンフレンドリーロボット

ロボットから人間の機能を補助・代行する医療福祉機器まで、家電製品から自動車まで幅広い対象に対して、人間の機能を追及し、機器に要求される機能を明確にし、人間と機器の融合によるヒューマンフレンドリーなデザイン手法を構築していきます。

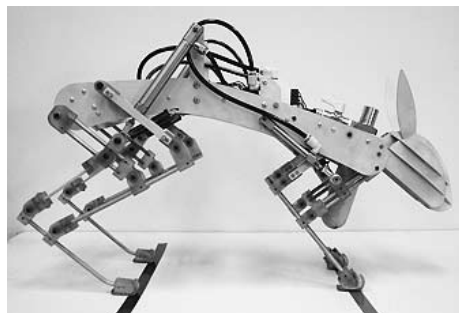
2. ヒューマンミメティックロボット

定着した産業用ロボットの次世代の姿を人間のような柔軟性に焦点を当て、感覚制御から運動制御まで、真の意味での人間のようにフレキシブルな産業用ロボットのデザイン手法を構築していきます。

さらに、小学生から高校生までの幅広いロボット製作教室、本学学生対象のロボットコンテスト、企業技術者へのロボット技術教育などロボットによる生涯学習も積極的に実施しています。



人間の衰えた制御能力を補助する電動車いす



動物の筋骨格系を模した跳躍ロボット

通信ネットワーク工学講座

(電波研究グループ)

教授 岡田 敏美／講師 三宅 壮聡・石坂 圭吾

<http://www.rdw.pu-toyama.ac.jp/>

私たちの研究室は、教員 3 名、大学院生 5 名（修士 2 名、博士 3 名）、学部生 7 名で電磁波を利用した様々なシステム開発を行っています。研究テーマとしてはコンクリート内鉄筋探査システムの開発、電波時計用電波の伝搬特性計測、宇宙探査機搭載用電波観測装置の開発、さらにこれらのシステム開発を行う前に、実際には目に見えない電波を理論に基づいたシミュレーションを行い、電波を目に見える形にして、受信機の性能を決定しています。このように我々の研究室では地上から宇宙までのあらゆる電波の利用に向けて研究を実施しています。特に近年は観測ロケットに搭載する電波受信機の開発を行っており、本研究室で開発された電波受信機が 2007 年冬期、夏期、2008 年冬期と連続で搭載されます。教員・学生みんなが毎日研究ばかりしているようですが、研究だけでなく、新卒研生の歓迎会から始まり、不定期な飲み会、ダヴィンチ祭での実験教室、そして、共同研究大学との懇親会の実施など、研究以外のイベントもあり、毎日が忙しく、変化に富んだ楽しい研究室です。

▶2007 年冬期に打ち上げられた我々の研究室で開発された電波受信機が搭載された観測ロケット (JAXA 提供)



2007 年度新卒研究生歓迎会



機械エネルギー工学講座

(旧熱力学講座)

准教授 坂村 芳孝／講師 舟渡 裕一

<http://www.pu-toyama.ac.jp/ME/netsuriki/>

私達の研究室は、平成 18 年 4 月の学科改組に伴い、熱力学講座から機械エネルギー工学講座へと名称が変わりました。坂村先生、舟渡先生指導の下、大学院生 7 人と学部生 8 人とで、以前から行っている衝撃波や感圧塗料の研究の他、昨年度から始めた誘導結合プラズマや相変化を伴う細管内流れの熱伝達に関する研究等、様々な熱流動現象の研究を行っています。4 月から実験室や研究室が少し広くなり、学生は伸び伸びと研究に励んでいます。卒業生の皆さん、お近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。お待ちしております。



集合写真 (2007 年 6 月 25 日撮影)

酵素化学工学講座

教授 浅野 泰久／講師 米田 英伸／助教 富宿 賢一

<http://www.pu-toyama.ac.jp/BR/asano/>

医薬品、食品添加物、工業中間原料など、私たちの生活で役立っている有用化合物には従来の有機合成法では合成の効率がよくない物質がたくさんあります。そのような物質を合成するために微生物や植物の酵素を利用することができます。酵素は温和な条件下で高選択性を有する反応を触媒し、その開発は公害を起こさず環境にやさしいクリーンな有用物質生産（グリーンバイオテクノロジー）の発展のために重要です。私たち酵素化学工学講座では、自然界より分離した様々な微生物やゲノム情報から新しい反応を触媒する酵素を効率良く見出し、酵素化学研究を行うと共に、酵素を工業的に使うための研究を行っています。植物も、微生物同様に、未知の酵素資源として開発を推進しています。また、平成 15 年度から富山医薬バイオクラスター事業に参加し、先天性代謝異常症診断のための診断キットの開発、酵素チップの応用研究、および進化分子工学的手法を用いた新規な有用酵素のハイスループット選抜のための技術開発を行っています。

平成 4 年 10 月の生物工学研究センター開所と同時に酵素化学工学部門（講座）が開設されて以来 15 年が経ち、その間に 24 名の大学院修士を輩出しています。また、これまで約 30 名の外国人学生や研究者が在籍し、常に英語が飛び交う国際色豊かな研究室です。現在の講座の構成は、教員 3 名、大学院生 5 名、短大部専攻科生 1 名、企業からの研修員 1 名、ポスドク 1 名、ポスマス 1 名、補助研究員 4 名で、大学院生のうち 2 名はタイ王国とイラン・イスラム共和国からの留学生です。多様な構成員がそれぞれ独自の研究を活発に行っています。写真は平成 19 年 4 月に撮影した全員写真です。



工学部生物工学科

工学部機械システム工学科

工学部情報システム工学科

総会を終えて

—高岡・氷見ブロックの心意気—

昨年10月アクア黒部の懇親パーティーで新川ブロックから高岡・氷見ブロックへと金色瓢箪を受け継いだ。

さっそく11月に実行委員会を立ち上げ約10名で初会合を開きました。先ず決めるべきことは開催日時、開催場所、記念講演会の講師であり、開催日時、場所については平成18年10月28日午後2時、ホテルニューオオタニ高岡とスムーズに決まったが講師については数人候補が出たが決まらず次回持ち越しとなった。講師については知名度、予算的な事も勘案して私の知人を通し地元射水市出身の作曲家聖川湧先生をお願いしたところタイミング良く先生が地元滞在中であり、即日知人から承諾の返事もらった。

日時、場所、講師が決まればあとは人集めということで実行委員会では総会出席人数を約120名に目標を掲げた。そのあと数回会合を持ちましたがハッキリとした人数がつかめず、途中実行委員の人数を約20名に増員しました。月日の経つのも早くあつという間に総会の月に入りました。目標人数には程遠くそれでも何とか格好をつけなくてはと各実行委員にノルマをかけ御足労を願いました。その結果、当日の参加人数は来賓を含めて約90名を確保することができました。



総会の様子

いよいよ県立大学同窓会当日を迎えました。ホテルニューオオタニ高岡で午後2時より総会が開かれ約30分で無事終了しました。続いて午後3時より記念講演会の時間になりました。聴講者は少ないのではないかと心配していましたがリーフレット等のPRで一般の方の入場もあり、会場はほぼ埋まり内心はホッとしま

した。定刻どおり聖川先生が入場され、さっそく「作曲家への道」のタイトルで講演がありました。話の内容は先生の下積み時代の苦労話や当時の芸能界のエピソード等聴講者にとっても大変興味深い話であり、時間の経つのも忘れ聞き入りました。また、先生の変らぬ郷土愛と作曲家としてのこれまでの努力に対し大変感銘を受けた次第であります。

そして、当日のメインイベント懇親パーティーでは御来賓として橋高岡市長をお招き又大学側からは中島学長はじめ多くの先生方のご臨席をいただきました。また、アトラクションとして津軽三味線奏者鍋谷東輝先生の演奏で宴に華を添えていただき県立大学同窓会も盛会裏に終えることができました。

このように講演会、懇親会と無事に終えることができましたのもひとえに関係者各位はじめ実行委員の方々の協力の賜物と誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

末筆になりますが、来年度は7年ぶりに県立大学同窓会本部の開催となりますが、6年間のブロック開催の成果に期待して来年度総会が大盛会に開催されますことお祈りいたします。

(高岡・氷見ブロック実行委員長 渋田 一雄)



平成19年4月に富山県立大学の学長になられた田中正人新学長さんは何代目の学長さんですか。

(ヒント・今号の7ページを見てください。)

◆はがきで〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内 千瓢編集部へ答えと住所・氏名を書いて応募ください。正解者10名に図書カード(500円)を進呈！正解者多数の場合は抽選。締め切りは11月15日(当日消印有効)。はがきに「千瓢」の感想も一緒に書いて下さい。メールでの応募もOKです。

「千瓢」創刊号クイズ当選者発表!!

<創刊号クイズ>

富山県立大学の前身、富山県立大谷技術短期大学の開学は何年ですか。

答えは、1962年でした。

正解者は、富山市の早川俊一さん、射水市の高長紀子さん、竹内祐子さん、魚津市の谷口佐奈子さんの4名です。おめでとうございます。

平成18年度同窓会総会スナップ

平成18年度の富山県立大学同窓会が10月28日（土）ホテルニューオオタニ高岡（高岡市）で開催された。今回の同窓会は平成13年度より実施している各ブロック持ち回り方式最後で、高岡・氷見ブロックが担当して行われた。

渋田一雄さんが中心になり、高岡・氷見ブロックの会員が実行委員会を作り準備を重ねてきて当日を迎えた。午後2時から総会、約30分で終わり。午後3時より射水市（新湊）出身の作曲家聖川湧氏の「作曲家への道」と題する記念講演があり、下積みからの話に多くの人が感動を覚えた。そして4時半から懇親会に移り、中島恭一学長をはじめ多くの恩師の方々が参加され、橘高岡市長の参加もあり盛り上がった。聖川氏も参加され華やいだ宴になりました。

同じホテルで2次会がもたれ、なつかしい話に話が弾み同窓会の夜が更けていきました。

📌 聖川さんの歌も飛び出した懇親会

📌 中島学長の挨拶



📌 安田郁子短期大学部長の乾杯



📌 記念講演の様子



📌 アトラクションも大盛り上がりでした



（広告掲載企業一覧）

アイザック石崎産業、朝日コンサルタンツ、安全性研究センター、いなほ化工、岡本清右衛門商店、北建コンサル、協和、建成コンサルタント、上智、新日本コンサルタント、水機工業、富山県農業協同組合中央会、中部設計、日水コン、日特建設、ふちゅうスポーツクラブ、山本理化

良質米の安定増収には **土づくり**と**健苗育成**

水稻の土づくりには いなほシリカロマン、けいさん鉄、ようりんケイカル

麦、大豆の土づくりには くみあいシェルフミン、粒状貝化石

健苗育成には いなほ加工床土、いなほ培土



いなほ化工株式会社

本社／高岡市駅南 4-8-6
富山工場／高岡市福岡町下裏 248

TEL：0766-21-0118
TEL：0766-64-2328

ゴルフコンペ



平成 18 年 10 月 29 日（日）、総会翌日に地区対抗ゴルフコンペが高岡カントリークラブで開催されました。

残念ながら先生の参加はお一人でしたが、県外からやご夫婦での参加者もあり楽しい一日でした。総会で飲みすぎて成績が振るわなかった方も・・・？

尚、優勝者は技術短大草農業科卒業の深川寿一さんでした。また、参加者は以下の 16 名の方々です。

《ご参加者のみなさん》

● 杉村美喜雄（富山市・衛工 1966）・杉村洋子（富山市・応数 1966）
● 岡田滋（富山市・衛工 1967）・森田英明（富山市・機械 1978）
● 長島政成（富山市・草農 1978）・土谷達郎（高岡市・衛工 1973）
● 広瀬慎一先生・紫藤健一（砺波市・草農 1965）
● 坪本正樹（砺波市・草農 1967）・小倉正義（砺波市・機械 1978）
● 奥野一夫（南砺市・草農 1967）・田矢守近（南砺市・農機 1971）
● 荒木甫（射水市・衛工 1965）・上田義成（滑川市・農機 1978）
● 深川寿一（立山町・草農 1970）・室川順子（三重県・応数 1978）

大学ニュース

新学長

田中正人学長が新しく代 4 代目学長に就任されました。

新役職教員

●学長補佐・キャリアセンター長

田中 潔 教授（工学部機械システム工学科）

●工学部長

川越 誠 教授（工学部機械システム工学科）

●学生部長

野村 俊 教授（工学部知能デザイン工学科）

昇 任

●教養教育

生物学講座 佐藤 幸生 教授

数学担当 戸田 幸一 准教授

●機械システム工学科

機械エネルギー工学講座 舟渡 裕一 講師

●知能デザイン工学科

マイクロ・ナノシステム工学講座 神谷 和秀 准教授

電子ナノデバイス工学講座 藤井 正 講師

●情報システム工学科

通信ネットワーク工学講座 石坂 圭吾 講師

新規採用

●生物工学科

応用生物情報学講座	いそがい やすひろ 磯貝 泰弘	准教授
生物有機化学講座	きしもと たかお 岸本 崇生	准教授
酵素科学工学講座	ふうしゆく けんいち 富宿 賢一	助教

退 職

平成 19 年 3 月 31 日をもって退職されました。
長い間お疲れ様でした。

中島 恭一学長

平成 2 年 10 月～ 工学部教授

平成 11 年 4 月～平成 13 年 3 月

工学部長・生物工学研究センター長

平成 13 年 4 月～平成 19 年 3 月 学長

葭田 隆治教授（短大部生物資源学科）

昭和 38 年 4 月～昭和 48 年 3 月

富山県立大谷技術短期大学教務職員

昭和 48 年 4 月～平成 4 年 3 月

富山県立技術短期大学助手

平成 2 年 4 月～平成 7 年 3 月 短期大学部助手

平成 7 年 4 月～平成 10 年 3 月 短期大学部講師

平成 10 年 4 月～平成 16 年 3 月 短期大学部助教授

平成 16 年 4 月～平成 19 年 3 月 短期大学部教授



歴代の同窓会長さんに、在任期間中の苦労話などを教えていただきました。

since 1964

吉田 定男 (技1農機)

〔在任期間〕1964～1994年

長く好景が続く昨今、県立大学の就職状況は全国大学のトップレベルにあると報道されるにつけ大変嬉しく思う。

さて、小生は第1回の卒業生として、初代の同窓会長として荒木現会長に引き継ぐまで(30年間)勤められたのも、大学当局ならびに会員の皆様のご協力の賜物と感謝するものである。

この間の思い出については「富山県立技術短期大学史」に述べております。この外、特に述べたいのは田村三郎学長先生との出会いであり、同窓会のあり方について適切なご指導を賜ったことである。先生はその後文化勲章を受章されたのであります。あらためて感謝を申し上げる次第である。

現在ここに短大部門と大学部門と一体となり同窓会としてりっぱに出発していること喜びにたえない次第である。

このうちは、県立大学ならびに同窓会の益々の隆盛を会員の一人として祈る次第である。



since 1994

辻井 泰考 (大1機械)

〔在任期間〕1994～1996年

祭り好きの私には少数の学生を少しでも盛り上げようと、学園祭に合わせて、同窓会を開きました。出席者の半分は役員でしたが、決算報告、次年度予算案など形式にこだわり、質疑応答も行いました。

盛り上がり欠ける少なさの中、「20年の辛抱だ」、「継続が力なり」、と自分や役員に言い聞かせながら続けてきました。同窓会館建設の夢も持って、予算も積みました。

残念ながら、夢を叶えるまでお世話をさせてもらえませんでした。が、今は大学時代に田中先生より学んだ複合材技術を活かして、世界初の複合材主翼を製作しています。初号機を5/14に名古屋より出荷しました。写真は出荷式のものですが。



since 1997

佐原 厚生 (大2電子)

〔在任期間〕1997～1998年

初代の辻井会長から同窓会を引き受けて、最初の大きな仕事と同窓会員名簿(初刊)の発刊でした。名簿発刊の請負業者さんには、私の勤務先に来てもらって、よく仕事の合間に打ち合わせしていました。当時の上司には、迷惑そうに思われたこともありましたが、信念をもって同窓会を運営していることに少しずつ、理解してくれるようになりました。

名簿発刊に際しては、会員の現況調査は大変でしたが、よく覚えているのは、業者さんの笑顔ですね。雑談中に、小杉の不二食堂を紹介したんですけど、以来、すっかり気に入った様子で、富山に来るたびに訪れるようになったと言っていましたね。

それから、週末に大学で開いていた役員会議の後には、よく、皆で「めん八」に行っていました。結局、同窓会を通じて、時々、学生気分に戻っていたように思えます。



since 1999

黒坂 健二 (大4機械)

〔在任期間〕1999～2000

現在海外赴任中



since 1995

荒木 甫 (技1衛工)

〔在任期間〕1995～現同窓会会長



since 2001

高田 満 (大2電子)

〔在任期間〕2001～同窓会副会長

在任中に苦労したことが2つあります。1つは同窓会10周年記念、1つは千瓢会との合併です。どちらも、周囲の方々に助けられて、なんとかやってこれたかな、と思います。会社、家庭の都合で中々思うように活動できない高田を長年バックアップして下さいました理事の皆様にお礼を申し上げます。



工学部同窓会

平成19年度

同窓会総会のお知らせ

日時

平成19年10月27日(土)

総会：午後2時から

記念講演会：午後3時から

懇親会：講演会終了後(午後4時半頃)

会場

ボルファートとやま

(富山市奥田新町8-1 / TEL. 076-431-1113)

記念講演会

講師：森 雅志 氏(富山市長)

演題：「人口減少時代を見据えて」

懇親会参加費

6,000円(当日会場にて納入してください。)

尚、懇親会には酒類もご用意しております。飲酒運転となりますので、お車でのご来場はご遠慮ください。準備の都合もありますので、出席される方は10月10日までに下記へご連絡ください。

連絡先

富山県立大学同窓会事務局 山口

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL 0766-56-7500(内線130)

FAX 0766-56-0396

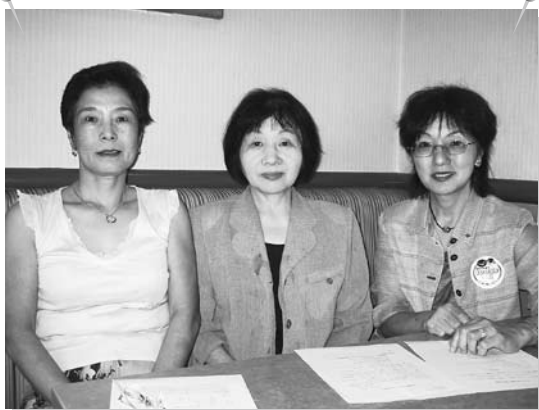
メール senpyokai@pu-toyama.ac.jp

みなさまの参加を
おまちしております



集まっでま〜す!!

1965年卒 応用数学科クラス会です



世話役が集まって計画をまとめているところ

来る、平成19年10月26日(金)の夜から呉羽ハイツで1泊の「応用数学科のクラス会」を開きます。そのままの勢いで翌27日(土)の県立大学の同窓会と記念講演もみんなで楽しもうと計画中です。写真は世話役が集まって計画をまとめているところです。

久しぶりにみんなに会えると思うと嬉しくて今から楽しみです。何が何でも参加してくださいね。これからは1年1年を大切に生き、すべてに感謝し「ありがとう」と言える自分でありたいものです。



●谷口佐奈子(技・農学 1984 年卒)

娘も大学受験の年になりました。同窓生になったらいいなあと思います。

●高長紀子(技・応用数学 1965 年卒)

「千瓢」編集何かとお疲れさま。たのしく読ませて頂きました。仲間っていいですね。これからもますます発展することを願っています。又、声かけ願います。

●竹内祐子(技・草農業 1973 年卒)

「私たちが編集しました」の記事が写真で載っていたのでスタッフの顔がわかり良かった。研究室紹介という記事が新しくできたので大学の活動内容がわかり良かった。

●早川俊一(技・草農業 1965 年卒)

葭田研究室 11 人で地域に貢献した研究誠に嬉しく拝読しました。先生のご活躍も時々新聞で嬉しく拝読しています。富山市役所でも先生の研究室の卒業生が多く活動しています。せんぴょうノートの佐藤助庵さん、お元気なときは、県民会館や歳末の善意銀行の色紙入札でよくお目にかかりました。茶道。建設何においても佐藤天皇の異名で活躍のあった人の茶室で、記念の建築物です。この数字をごぞんじですか?では。大谷さんは美術品も沢山収集されており、やがては富山県へ寄付されるお気持ちだったとか。しかし、大谷技術短期大学を県立技術短期大学に改名したところで、お気持ちが変わり地元へ寄付されてしまった。今は、その美術品を元に建設した美術館は大繁盛しているとかである。何事も、始めにご苦労をした人のことを忘れてはならないと思う。

編 集 後 記

▼今号の特集「先生からのメッセージ」はどうか。今回いただいた原稿の中に植松先生から「毎日 2 時間本を読むように恩師から言われ、それを守るように努力している」という箇所があり感銘を受けました。今からでも実行しようと思いました。

▼歴代の同窓会の会長からメッセージをいただきました。その人たちの努力の上に同窓会が成り立っていると実感しました。

▼最近、大学の事が報道されることが多くなり、うれしくなります。最近も(9月7日付け北日本新聞)「大学院教育改革プログラム 県立大を採択」という記事が目に入りま

した。内容は文部科学省が本年度から創設した「大学院教育改革支援プログラム」に県立大学の「環境調和型高度ものづくり能力の育成」が選ばれたというものです。全国 154 大学 355 件の申請のなかから、全国で 61 大学 126 件のプログラムが選ばれた。このプログラムは大学院工学研究科機化学システム工学専攻の院生が対象のプログラム。内容は専門分野以外の基礎科目も必修にして視野の広い研究者の育成につなげる。環境部門の企業実習も行う。国際的に通用する技術者の育成へ、海外も含めた学会発表に 30 万円を助成し、外国人研究者による英語論文指導も行う。

▼中島前学長さんには同窓会が大変お世話になりました。何回かインタビューに応じていただき同窓会の機関誌に載せてもらいました。同窓会の総会にはいつも出席いただき、同窓生との交流に勤めておられた姿を思い浮かべます。北日本新聞に 10 回に亘り連載された「わが半生の記」は大変興味深く読ませていただきました。

▼創刊号から今号の 2 号へ、すこしは良くなりましたか。次号まで

(池上 勁)